

教職員の多忙化解消にかかる取り組みについて

1 市実施調査結果（教職員の勤務実態把握調査）

（1）調査概要及び結果

平成 29 年 8 月 25 日教育委員会 8 月定例会報告事項

①調査期間：平成 29 年 6 月 22 日（木）から平成 29 年 7 月 19 日（水）

②対象校等：小学校 3 校（72 人）・中学校 3 校（103 人）

③調査方法及び内容：

各自に I C カードを配布し、出退勤時に専用の機械にタッチすることで、出勤及び退勤時間を記録

[時間数は教員 1 人あたりの数値]

学校名 (対象教員数)		上段:平日1日の平均 超過勤務時間	上段:休日 9 日間の出勤率 (出勤日数/休日の延日数)		
		下段:平日 19 日間の平均 超過勤務時間①	下段:休日 9 日間の平均 超過勤務時間②	28 日間の平均超過 勤務時間①+②	28 日間で超過勤務 80 時間以上的人数
小学校	A 小 (18 人)	2 時間 27 分	9.7%(14 日/144 日)		
		49 時間 10 分	3 時間 9 分	52 時間 19 分	3 人(16.7%)
	B 小 (21 人)	2 時間 35 分	2.6%(5 日/189 日)		
		49 時間 16 分	44 分	50 時間 00 分	3 人(14.3%)
	C 小 (33 人)	2 時間 17 分	9.8%(29 日/297 日)		
		43 時間 33 分	4 時間 3 分	47 時間 36 分	3 人(9.1%)
小学校全体 (72 人)		2 時間 25 分	7.6%(48 日/630 日)		
		46 時間 37 分	2 時間 52 分	49 時間 29 分	9 人(12.5%)
中学校	D 中 (20 人)	3 時間 37 分	47.2%(85 日/180 日)		
		69 時間 00 分	30 時間 3 分	99 時間 3 分	13 人(65.0%)
	E 中 (32 人)	3 時間 54 分	23.3%(67 日/288 日)		
		74 時間 24 分	15 時間 55 分	90 時間 19 分	18 人(56.3%)
	F 中 (51 人)	3 時間 43 分	42.5%(195 日/459 日)		
		70 時間 51 分	32 時間 16 分	103 時間 7 分	34 人(66.7%)
中学校全体 (103 人)		3 時間 46 分	37.4%(347 日/927 日)		
		71 時間 36 分	26 時間 45 分	98 時間21分	65 人(63.1%)

*28 日間のうち平日の日数は 19 日、休日の日数は 9 日。ただし、A 小学校については休日に 1 日勤務日があったため平日 20 日、休日 8 日で算出。

(2) 対象校へのヒアリング結果

①ヒアリング実施期間：平成 29 年 10 月 13 日（金）から 10 月 19 日（木）

②ヒアリング内容

小学校		状況
管理職	校長	○ 校長は、<u>4・5月、7・8月の土曜日と日曜日は、ほとんど地域に出ている。</u> ○ 校長は毎月1回の防災会議に出ている。（現在、地域防災マニュアルを作成） ○ 校長は、平日の夜 19 時過ぎに月1、2回は、行政センターやコミュニティーセンターで青少年育成の会や防災関係の会議などがある。 ○ 校長は中学校の体育祭に出席している。 ○ 相撲大会、陸上記録会、タグラグビーの大会など、<u>行事で土曜日と日曜日に出ることが多い。</u> ○ 学校が、勤務時間後に会議の会場になると、終了後の打ち合わせや片づけなどがあるため、全てが終わるまで学校を閉めることができない。 ○ <u>管理職の退勤が遅い学校は、教職員の退勤が遅くなりがちである。</u> ○ 教職員には、早く帰るように伝えているが、強制すると持ち帰り仕事が増える。
	教頭	○ 教頭への教職員からの相談は多い。 ○ <u>教頭が最後まで残り、警備のセットをしている学校もある。</u> ○ 教頭は6時過ぎ頃に来て、19 時頃を目途に帰っている。 ○ 教頭は落ちついて仕事ができる朝に仕事をしている。 ○ 夜間に保護者からの電話が多い学校もある。
総括教諭 教諭		○ 6・7月が一番落ち着いている時期であり、9・10 月は行事が多くなり忙しくなる。 ○ <u>成績をまとめる時期の2、3週間は、土曜日と日曜日でも出勤している。</u> ○ <u>新しい仕事が入ってきて、減る仕事がないので、仕事は増えるのみである。</u> ○ 小学校の教員は、1週間に 25 から 27 コマの授業を受けもつため、<u>自分の仕事ができる時間は、児童が下校した 16 時以降である。</u> ○ 校務分掌の会議や学年会があり、16 時 45 分までは自分の仕事を行う時間がない。 ○ 7 時 30 分に出勤し 19 時に帰る（残業3時間）というのが、教員の一般的な働き方である。 ○ <u>若い教員が遅くまで残っている傾向がある。</u> ○ 若い教員とベテラン教員をペアにした学年構成によって、お互いに協力し合っている。 ○ 高学年の担任は、仕事量が多いため遅くまで残っていることが多い。 ○ 総括教諭の退勤時間が遅く、周りの教員に対して遅くまで仕事をする手本となっている。 ○ <u>今までの働き方が染みついており、20 時になっても、帰らなければという意識が薄い。</u> ○ 勤務時間外の時間が、コミュニケーションをとる時間となっている。 ○ 子どもが小さいなど、家庭の事情がある教員は早く帰っている。 ○ 毎週金曜日に学級だよりを発行するので、木曜日は遅くなる。 ○ メンタルヘルス・チェックの回答を正確に回答していない教員もいる。 ○ 健民運動会には、参加可能な教員が参加している。
養護教諭		○ <u>支援教育コーディネーター担当の仕事が増え、19 時頃に退勤している。</u> ○ 子どもが小さいので 18 時 30 分頃には帰っている。支援教育コーディネーターを担当しているが、限られた時間で上手に仕事をしている。
事務職員		○ 事務職員は、おおむね勤務時間内で仕事ができている。 ○ 職員室の教員が電話に出られない場合は、電話を取っている。 ○ <u>年度初めや年度末、ボーナス時期は遅くなるが、通常は 17 時 30 分から 18 時頃に帰っている。</u> ○ 事務職員は 17 時から 17 時 30 分頃に帰り、時間外勤務はあまりない。

中学校		状況
管理職	校長	○ 校長はなるべく早く帰るように意識し、19 時頃には帰っている。 ○ <u>平均すると月 2 回くらい平日の夜に会議が入っている。</u>(連町、PTA 運営委員会、震災時避難所運営委員会など) ○ <u>時期によっては、土曜日や日曜日にパトロールなどもある。</u> ○ 学区の 16 町内会にあいさつに回っている学校もある。 ○ 地域の祭りに先生を出してほしいという要望がある。 ○ 校長は小学校の運動会に出席している。 ○ 誰が何時まで残っているのか全てはわからないため、教職員が倒れたときに、何時間仕事をしてたのかを証明できない不安がある。
	教頭	○ 教頭は、校長の代理で地域の会議に出席することがある。 ○ 教頭の仕事の中で、教育委員会などからの提出物は減ってきていると思うが、<u>教員がやるべき仕事を整理する必要がある。</u> ○ データで送られてきた周知文などは、全てをプリントアウトして、教職員で情報共有している。 ○ <u>教職員から教頭への相談は多い。</u> ○ 出張後は直帰するように声をかけているが、多くの教員が学校に戻ってきて仕事をしている。
総括教諭 教諭		○ 年度当初(4・5月)、成績処理の時期(7・9・11・2月:学校による)、年度末(3月)は多忙である。 ○ 18 時 30 分や 19 時から自分の仕事に取り掛かり、21 時や 22 時の退勤が当たり前になっている。 ○ 生徒指導は、多くの教員で対応せざるを得ない。 ○ 生徒指導の事案が発生すると対応に膨大な時間がとられるので、予防のために見回りなどをして、授業準備等は後回しになる。 ○ <u>授業がない時間も廊下などを見回るため、勤務時間内に教材研究をする時間はない。</u> ○ 若い独身の教員が、遅くまで残っている。 ○ <u>若い教員は一生懸命に取り組むが、仕事のノウハウが少なく長時間勤務につながっている。</u> ○ パソコンで仕事は便利になったが、時間をかけて資料を丁寧に作成している教員もいる。 ○ 勤務時間外の時間が、教員同士でコミュニケーションをとる時間となっている。 ○ 家への持ち帰りができないので、学校で遅くまで仕事をしている。 ○ 週の授業時数は多い教員で 22 コマ(週 29 コマ中)であるが、<u>授業がない時間は、支援が必要な生徒への対応などを行っていることが多い。</u> ○ 以前は、複数の教員が授業に入ることはなかったが、今は支援的な要素もあり、複数の教員で授業を行っている。 ○ 家庭事情によって、勤務時間に差があり、小さい子どもがいる教員は早く帰っている。 ○ 早く帰ったからといって、次の日に影響が出ているわけではない。 ○ <u>休日は、部活動だけではなく、教材研究や事務処理も行っている。</u> ○ 多くの教員は、休日に仕事をするをあまり苦にせず、平日の仕事を休日に行っている。 ○ 生徒と関わる際には気を遣うが、ともに過ごす時間は長くてもあまり苦となっていない。 ○ 休日でも部活動に時間をとられている。 ○ <u>大会の有無にかかわらず、部活動の時間の割合が大きい。</u> ○ 部活動の朝練があるときは、7 時過ぎ頃に学校にきている。 ○ 部活動の終了時刻は、時期によって異なる。(春と秋…17 時 30 分に終了 17 時 45 分には完全下校、夏…18 時に終了 18 時 15 分には完全下校、冬…17 時に終了 17 時 15 分には完全下校) ○ テスト前は部活動もなく、退勤する時間は少し早いですが、テストの作問に時間を取られるため退勤時間は、それほど変わらない。 ○ 運動部以外では、吹奏楽部の練習が長時間になっている。 ○ 部活動は、月曜の朝練や水曜の練習はやらない、土日の一方は休み等決めている学校もある。 ○ <u>長時間勤務の原因は、部活動だけでなく複合的な理由であると考えている。</u>
養護教諭		○ <u>支援教育コーディネーターを担当している養護教諭は、勤務時間が長くなる。</u> ○ 養護教諭の 1/4 くらいが、支援教育コーディネーターを担当している。
事務職員		○ 事務職員は、時間外手当から超過勤務時間を把握でき、<u>月に数時間程度の残業をしている。</u> ○ 若い事務職員には、他校からのサポートも行われているが、人材育成も必要である。

2 県実施調査結果（市町村立学校勤務実態調査）

市町村立学校勤務実態調査の調査結果のうち、本市で実施した小学校7校及び中学校4校の教職員の勤務実態調査の結果は以下のとおりです。

（1）調査概要及び結果

①調査期間：平成29年11月から平成29年12月までのうちの7日間

②対象校等：指定都市を除く県内市町村立学校90校（横須賀市立小学校7校（189人）・中学校4校（120人））

③調査方法及び内容：

指定された調査票へパソコンにより入力することで、勤務時間（出勤時刻、退勤時刻、休息時間）及び30分単位での業務内容等を記録

④本市小学校の結果

[時間数は教員1人あたりの数値]

学校名 (対象教員数)		上段:平日1日の平均 超過勤務時間 下段:平日5日間の平均 超過勤務時間①	上段:休日2日間の出勤率 (出勤日数/休日の延日数) 下段:休日2日間の平均 超過勤務時間②	7日間の平均超過 勤務時間①+②	28日間で超過勤務 80時間以上的人数
小 学 校	G小 (12人)	2 時間 33 分	8.3%(2 日/24 日)		
		12 時間 45 分	28 分	13 時間 13 分 (52 時間 52 分)	2人(16.7%)
	H小 (28人)	2 時間 57 分	21.4%(12 日/56 日)		
		14 時間 45 分	1時間1分	15 時間 46 分 (63 時間4分)	10 人(35.7%)
	I 小 (31 人)	3 時間 49 分	12.9%(8日/62日)		
		19 時間9分	35分	19 時間 44 分 (78 時間 56 分)	18 人(58.1%)
	J 小 (28 人)	2 時間 41 分	7. 1%(4日/56日)		
		13 時間 27 分	15 分	13 時間 42 分 (54 時間 48 分)	6人(21.4%)
	K小 (32 人)	2 時間 24 分	14.1%(9 日/64 日)		
		12 時間4分	27 分	12 時間 31 分 (50 時間4分)	3人(9.3%)
	L 小 (27 人)	3.時間 26 分	29.6%(16 日/54 日)		
		17 時間 14 分	1時間 24 分	18 時間 38 分 (50 時間4分)	9 人(33.3%)
	M小 (31 人)	3 時間 26 分	22.6%(14 日/62 日)		
		17 時間 11 分	1 時間 13 分	18 時間 24 分 (73 時間 36 分)	15 人(48.4%)
小学校全体 (189 人)		3 時間5分	17.2%(65 日/378 日)		
		15 時間 27 分	47 分	16 時間 14 分 (64 時間 56 分)	63 人(33.3%)

⑤本市中学校の結果

[時間数は教員1人あたりの数値]

学校名 (対象教員数)		上段:平日1日の平均 超過勤務時間	上段:休日2日間の出勤率 (出勤日数/休日の延日数)		
		下段:平日5日間の平均 超過勤務時間①	下段:休日2日間の平均 超過勤務時間②	7日間の平均超過 勤務時間①+②	28日間で超過勤務 80時間以上の人数
中学校	N中 (24人)	3時間18分	47.9%(23日/48日)		
		16時間33分	3時間25分	19時間58分 (79時間52分)	11人(45.8%)
	O中 (19人)	3時間39分	44.7%(17日/38日)		
		18時間19分	3時間49分	22時間8分 (88時間32分)	13人(68.4%)
	P中 (45人)	3時間48分	57.8%(52日/90日)		
		19時間2分	4時間20分	23時間22分 (93時間28分)	31人(68.9%)
	Q中 (32人)	4時間35分	50.0%(32日/64日)		
		22時間58分	3時間9分	26時間7分 (104時間28分)	25人(78.1%)
	全体 (120人)	3時間53分	51.7%(124日/240日)		
		19時間28分	3時間45分	23時間13分 (92時間52分)	80人(66.7%)

* 7日間の平均超過の()内は、7日間の平均超過×4週間分で算出。

* 28日間で超過勤務80時間以上の人数は、調査期間の超過勤務時間×4週間分で80時間以上の人数を算出。()内は各学校の調査対象教員数に対して80時間以上の人数の割合を表示。

3 県実施調査における本市教員の結果

(1) 回答者の属性(男女比・職種構成等)

①男女比

	小学校(有効回答数1,424人)		中学校(有効回答数801人)	
	男性	女性	男性	女性
県	41.8%	58.2%	60.4%	39.6%
市	44.4%	55.6%	56.7%	43.3%

②職種構成

(ア) 小学校

	校長	教頭	総括教諭	教諭	養護教諭	栄養教諭
県	4.2%	4.2%	13.3%	73.5%	3.9%	0.9%
市	3.7%	3.7%	12.7%	76.2%	2.6%	1.1%

(イ) 中学校

	校長	教頭	総括教諭	教諭	養護教諭
県	3.7%	3.7%	16.1%	73.1%	3.4%
市	3.3%	3.3%	17.5%	71.7%	4.2%

③総括教諭・教諭の年齢構成

(ア) 小学校

	30歳以下	31～40歳	41～50歳	51～60歳	61歳以上
県	33.5%	30.8%	15.5%	15.9%	4.3%
市	34.5%	29.8%	12.5%	15.5%	7.7%

(イ) 中学校

	30歳以下	31～40歳	41～50歳	51～60歳	61歳以上
県	33.2%	25.8%	13.0%	23.8%	4.2%
市	31.8%	20.6%	14.0%	26.2%	7.5%

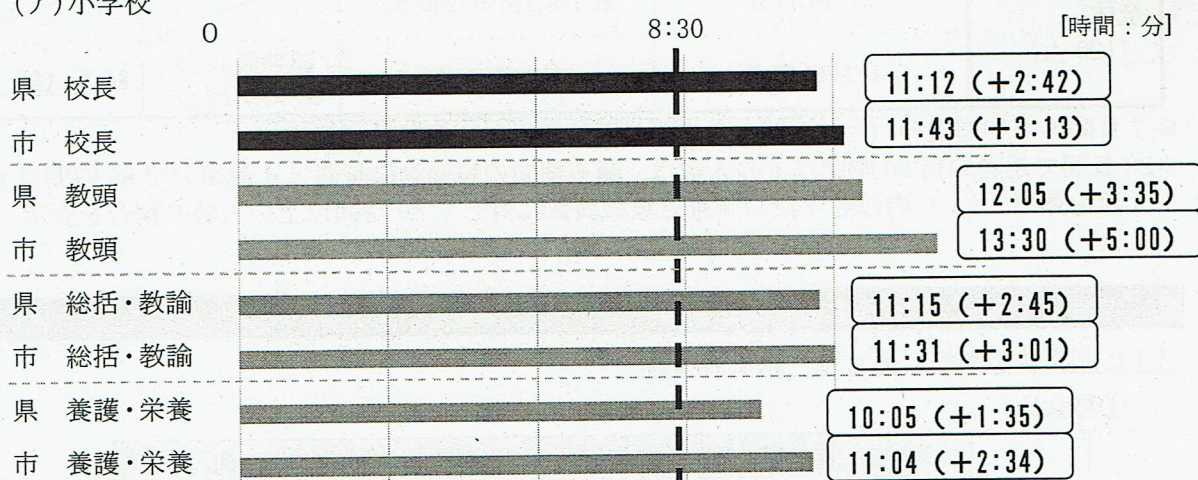
(2) 教員1人当たりの1日の平均学内勤務時間（持ち帰り業務は含まない）

①勤務日

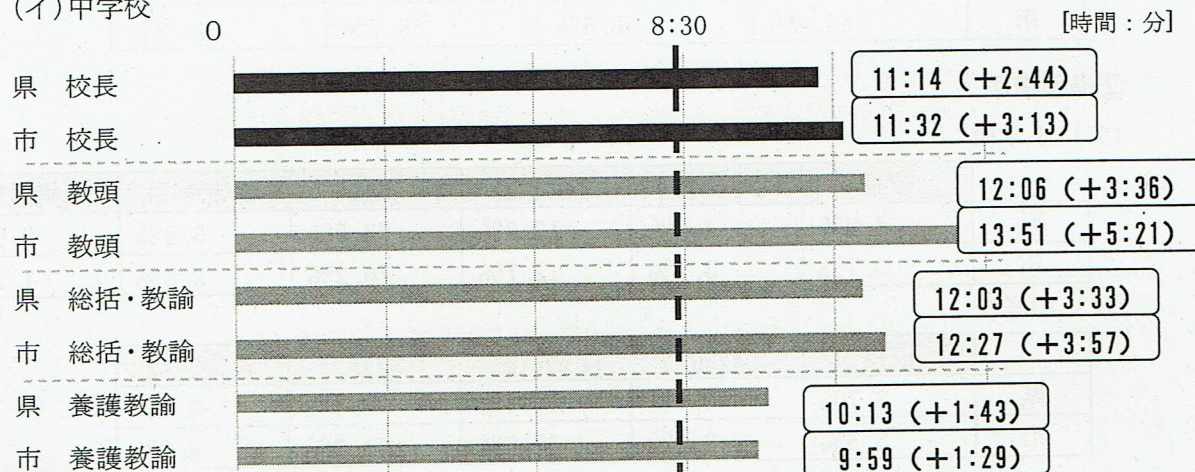
() 内は勤務時間を超えて勤務した時間

本市の教員は、いずれの校種・職種においても、1日の勤務時間（8時間30分）を1時間以上超え、特に教頭は5時間、校長及び総括教諭・教諭は勤務時間を3時間超えていた。

(ア) 小学校



(イ) 中学校



②週休日・休日

本市の教員は、小学校の養護教諭及び栄養教諭をのぞいた校種・職種において、週休日・休日に勤務があり、中学校の総括教諭・教諭については、4時間以上の勤務を行っていた。

(ア) 小学校

[時間：分]

県 校長		1:46
市 校長		1:53
県 教頭		1:46
市 教頭		2:55
県 総括・教諭		0:43
市 総括・教諭		0:41
県 養護・栄養		0:17
市 養護・栄養		0:00

(イ) 中学校

[時間：分]

県 校長		2:17
市 校長		1:26
県 教頭		2:32
市 教頭		1:51
県 総括・教諭		4:14
市 総括・教諭		4:05
県 養護教諭		0:58
市 養護教諭		0:42

③週休日・休日の勤務状況（県実施調査における本市教員の結果）

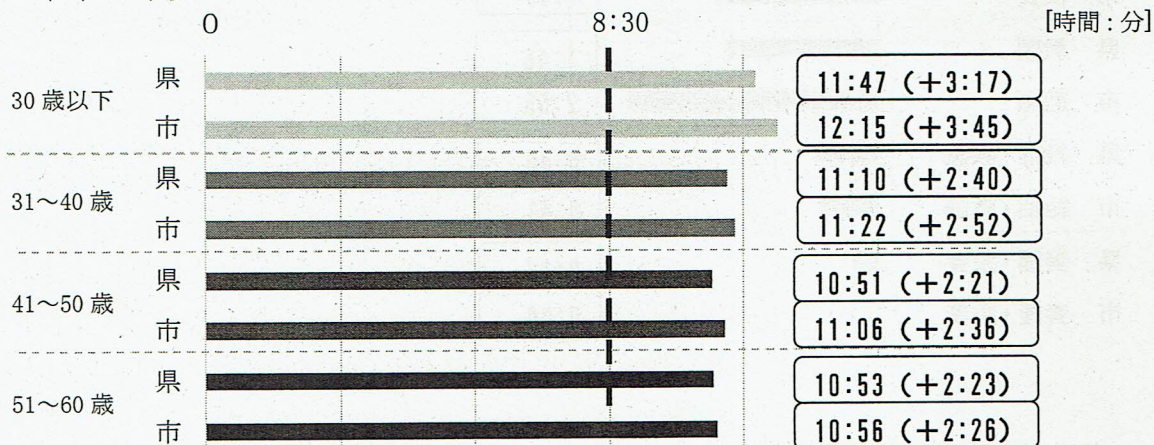
小学校				中学校			
職種（総数）	土日どちらか勤務	土日両日勤務	出勤割合	職種（総数）	土日どちらか勤務	土日両日勤務	出勤割合
校長（7人）	4人	2人	85.7%	校長（4人）	2人	1人	75.0%
教頭（7人）	5人	2人	100%	教頭（4人）	0人	3人	75.0%
総括（24人）	5人	1人	25.0%	総括（21人）	9人	4人	61.9%
教諭（144人）	33人	4人	25.7%	教諭（86人）	33人	32人	75.6%
養護（5人）	0人	0人	0%	養護（5人）	1人	0人	20.0%
栄養（2人）	0人	0人	0%				

(3) 年齢構成別の総括教諭・教諭1日の平均学内勤務時間（持ち帰り業務は含まない）

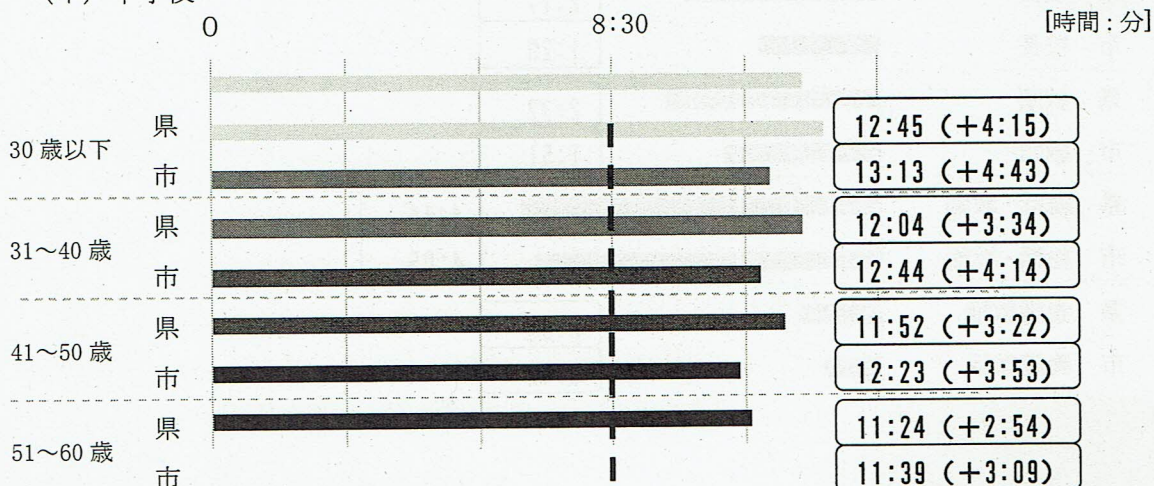
本市の教員は、勤務日ではいずれの校種においても30歳以下の勤務時間数が最も多く、他の年代と比べて約30分以上の差があった。また、週休日・休日では、中学校の30歳以下で4時間40分、31～40歳で5時間12分、41～50歳で4時間50分の勤務を行っていた。

①勤務日

(ア) 小学校

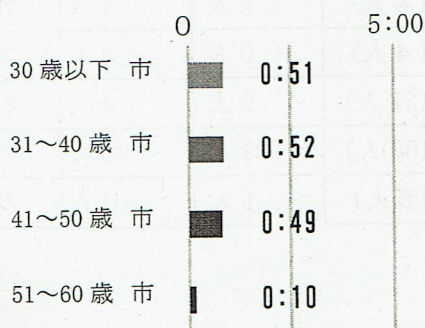


(イ) 中学校

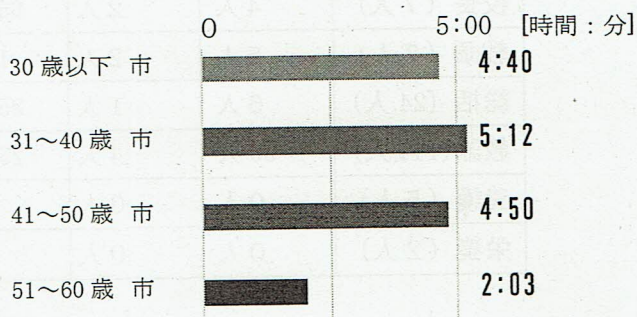


②週休日・休日

(ア) 小学校



(イ) 中学校

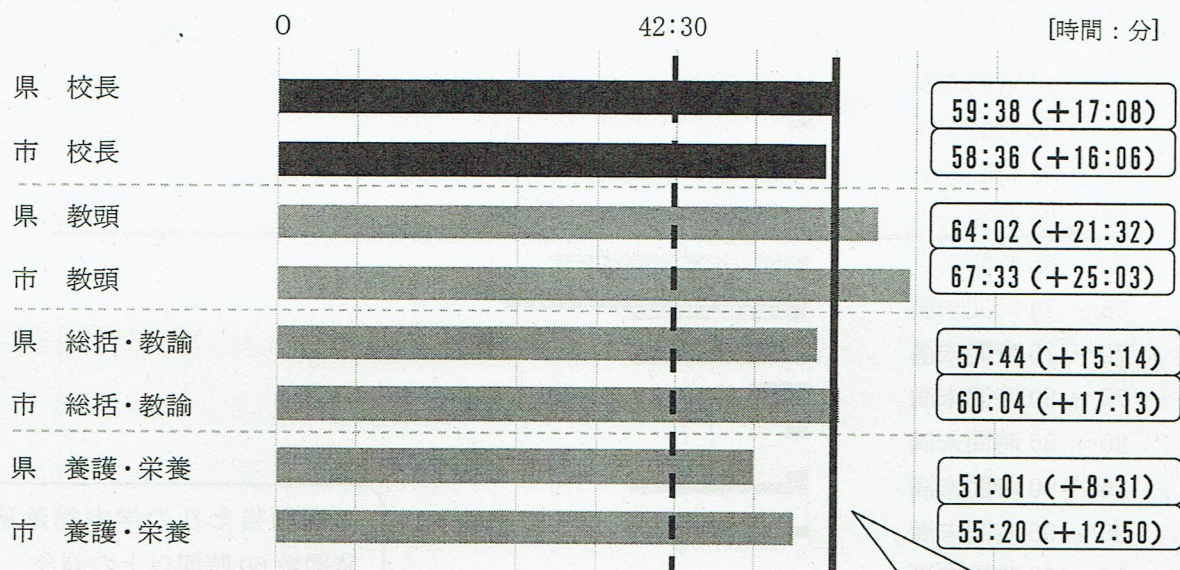


(4) 教員 1 人当たりの 1 週間の平均学内総勤務時間数(休日含まず、持ち帰り残業は含まない)

本市の教員は、いずれの校種・職種においても、週の勤務時間（42 時間 30 分）を超えていた。教頭は勤務時間の 25 時間を超え、校長及び教諭は 16 時間を超える勤務を行っていた。

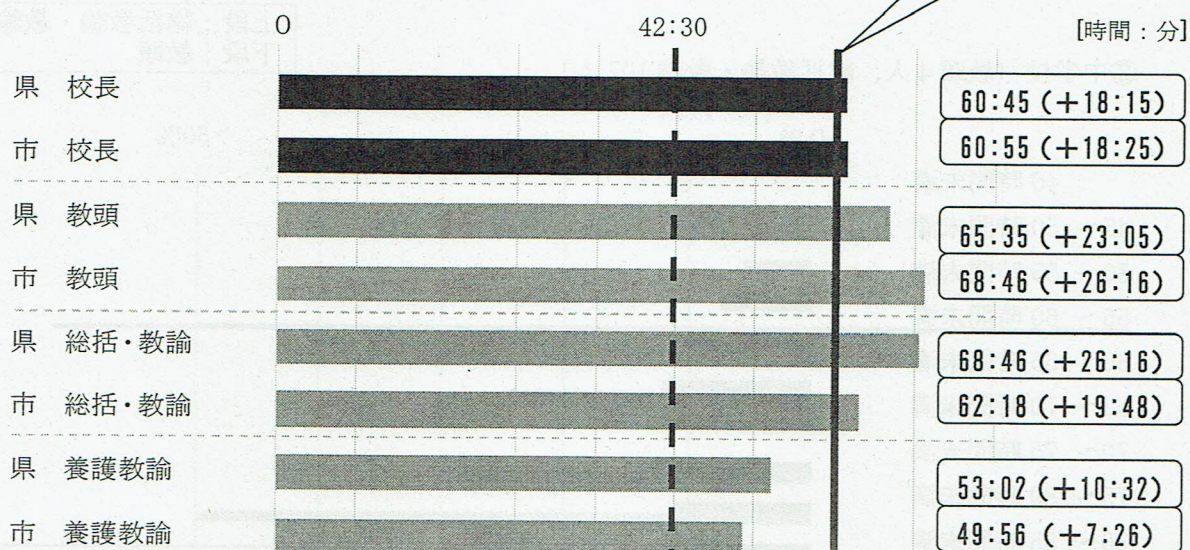
①小学校

() 内は勤務時間を超えて勤務した時間



週勤務 60 時間のライン
(月になると、超過分が 80 時間を超える可能性あり)

②中学校



* 超過分は 42 時間 30 分を超える時間としている。

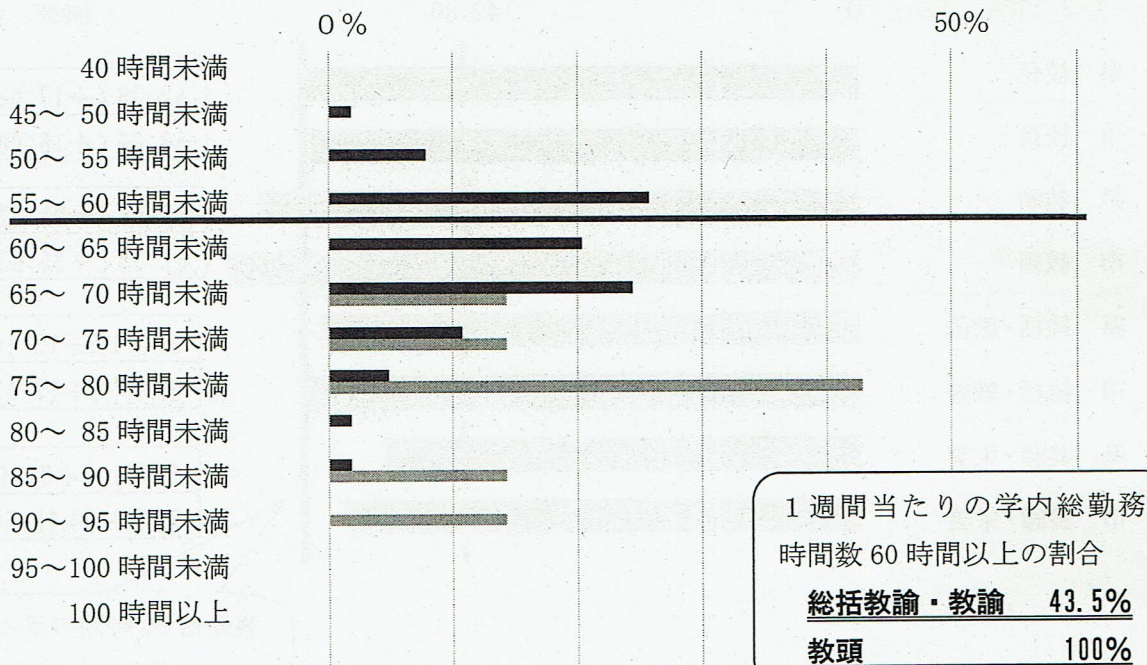
1 週間の勤務時間は、38 時間 45 分（7 時間 45 分×5 日）＋3 時間 45 分（45 分×5 日）

(5) 1週間当たりの学内総勤務時間数の分布（本市教員のみ、持ち帰り残業は含まない）

本市の教頭は、1週間あたりの学内勤務時間（42時間30分）が60時間を大きく超えていた。
1週間の学内勤務時間数が60時間を超えていた小学校の総括教諭・教諭は43.5%であり、
中学校の総括教諭・教諭は74.8%であった。

①小学校（教頭7人、総括教諭・教諭168人）

上段：総括教諭・教諭
下段：教頭



②中学校（教頭4人、総括教諭・教諭107人）

上段：総括教諭・教諭
下段：教頭

